

# 日機装通信

第84期中間期

2024年1月1日~6月30日



## 日機装技術研究所（東村山）に新研究棟を建設

当社は、研究開発拠点である日機装技術研究所内に、新研究棟を建設することを決定しました。総工費は約124億円で、2027年5月に竣工予定です。

新研究棟では、CAE\*を活用しながら、水素、アンモニアなどの次世代エネルギーに対応するポンプや、生産自動化、コンポジット（複合材料）等に関する研究開発を行います。大型のポンプやコンポジットの実験や試作が可能な大型実験試作エリアや高度な機器を備えた評価試験エリア、お客様の研究段階からの共創により製品開発を行うためのエリアを執務エリアに隣接して設置し、アイデアをすぐに形にする試作、検証が可能な環境を構築します。

また、先に稼働中のメディカル技術センターと新研究棟を連結し、技術者が互いの知識を共有する場を設けるなど、技術者同士の交流を支援する環境を整備し、事業部間のコラボレーションを推進します。さらに、当社が持つ技術を発信し、他企業や大学等の研究機関との連携を加速させる場を設け、人材の育成やイノベティブな製品の創出、新しいビジネスモデルの創造に取り組んでまいります。

\*CAE（Computer Aided Engineering）とは、トライ&エラーを繰り返していた従来の実験プロセスを、コンピュータ上でのシミュレーションに置き換える技術のこと。



## 事業ポートフォリオの転換を推し進め、 長期的な成長の礎を築いてまいります。

代表取締役社長 甲斐 敏彦

### 当中間期の業績について

中期経営計画「Nikkiso2025 フェーズ2」の2年目となる2024年の世界経済は、ウクライナ情勢不安の長期化、中国の景気回復の遅れや、大幅な円安の進行等で、先行き不透明な状況が続いています。このようななか、当中間期は受注、売上、営業利益ともに大幅な増加となりました。

受注の増加は、エネルギー確保や、脱炭素化に向けたLNG、次世代エネルギー関連の投資が継続しており、インダストリアル事業の受注が拡大していることが主な要因となっています。

売上収益は、円安影響に加え、インダストリアル事業の米国子会社Clean Energy & Industrial Gasグループ（以下CE&IGグループ）を中心にLNG関連向けが大幅に増加し、航空宇宙事業も緩やかながら出荷の回復が続いたことで、

大幅な増収となりました。メディカル事業では、中国市場の需要が一時的に減退した影響により減収となりました。営業利益では、メディカル事業の中国市場向けの減収影

	FY2023 2Q実績	FY2024 2Q実績	前期比	
			増減額	増減率
受注高	985	1,183	+198	+20.2%
売上収益	872	1,026	+154	+17.7%
営業利益	0	27	+27	-
利益率	0.0%	2.7%		
税引前中間利益	54	71	+16	+30.5%
利益率	6.2%	6.9%		
親会社の所有者に帰属する 中間利益	38	59	+20	+53.7%
利益率	4.4%	5.8%		
期中平均為替レート				
対米ドル(円)	135.00	152.36	+17.36	
対ユーロ(円)	145.93	164.70	+18.77	

響もありつつも、CE&IGグループにおいて、当初想定から生産・出荷が進捗した結果、当下期の引き渡しや売上計上分の前倒しもあり売上が大きく拡大したことで、前年同期から大幅な増加となりました。

また、事業ポートフォリオの見直しに伴う一過性の損失として18億円を計上しております。CRRT事業の譲渡に関連する減損損失を6億円、ヘルスケア製品とUV-LEDパッケージに関する棚卸資産の評価損をあわせて12億円計上しましたが、いずれもリソースを集中させ資本効率を高めるための中計施策の一環となります。

この結果、受注高は1,183億円、売上収益は1,026億円、営業利益は27億円となりました。税引前中間利益は円安影響を受けて為替差益を38億円計上したことで71億円、親会社の所有者に帰属する中間利益は59億円となりました。

### 2024年12月期の見通しについて

当期業績予想について、直近の事業動向、為替動向を踏まえ、業績予想を修正しました。営業利益は、当中間期の業績および各事業の直近動向を踏まえ、当中間期に計上した一過性の損失相当分を下方修正しています。税引前利益および当期利益は、今後の為替見通しが不透明であることから、期末日の想定レートを中間期末レートと同一となる前提で算定し、為替差益の増加を見込み、それぞれ上方に

	FY2024 上期 実績	FY2024 下期 業績予想	FY2024 通期 業績予想	FY2024 通期 前回業績予想	
				前回業績予想	前环比 増減額
受注高	1,183	1,066	2,250	2,240	+10
売上収益	1,026	1,103	2,130	2,130	-
営業利益	27	42	70	90	△20
利益率	2.7%	3.9%	3.3%	4.2%	
税引前利益	71	35	107	91	+16
利益率	6.9%	3.3%	5.0%	4.3%	
親会社の所有者に帰属する 当期利益	59	28	88	62	+26
利益率	5.8%	2.6%	4.1%	2.9%	

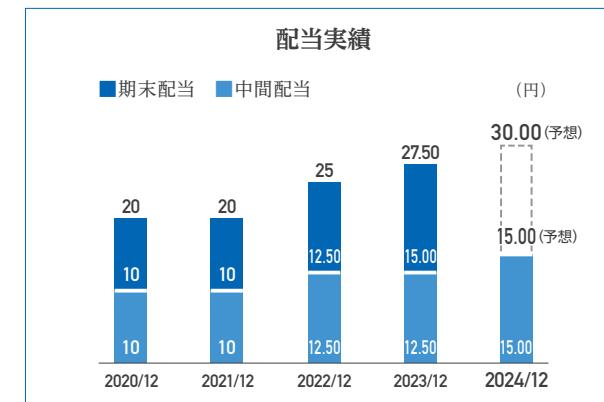
修正いたしました。

セグメント別では、工業部門については、受注、売上は前回予想比で増加、営業利益は減少を見込んでいます。インダストリアル事業は、好調な業況を踏まえ、受注、売上収益、営業利益とも増加を見込む一方、航空宇宙事業は、ボーイング社の品質問題の影響で、減収・減益を見込みます。その他、UV-LED事業の棚卸評価損などで9億円下方に修正し、68億円を見込みます。

医療部門については受注、売上、営業利益ともに下方修正します。血液透析事業は中国市場の販売減少から減収を見込みます。営業利益については、概ね当初計画通りの営業利益を見込む一方、本年度中に譲渡予定のCRRT事業の中国市場の低迷に伴う減収減益、加えてヘルスケア事業の製品評価損計上により、医療部門全体では、12億円下方修正した46億円を見込みます。

その結果、航空宇宙事業やメディカル事業の事業環境の悪化に伴う下振れを、インダストリアル事業等で打ち返し、全体としては、営業利益は事業ポートフォリオの見直しに伴う一過性損失相当分を下方に修正した70億円を見込みます。

当社を取り巻く事業環境は不透明な状況が続いていますが、当期を当社グループの長期的な成長の礎を築く重要な年として、引き続き経営基盤の強化に取り組んでまいります。



## セグメント別実績および事業概況

### 工業部門

受注高	800億円 (前期比36.6%増)	売上収益	630億円 (前期比38.6%増)	営業利益	32億円
-----	----------------------	------	----------------------	------	------

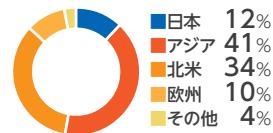
#### インダストリアル事業

受注高	713億円 (前期比37.4%増)	売上収益	540億円 (前期比39.6%増)	営業利益	46億円 (前期比709.7%増)
-----	----------------------	------	----------------------	------	----------------------



産業用ポンプ・システム、液化ガス・産業ガス関連機器・装置等の製造・販売・メンテナンスを行なっています。

- 産業用ポンプ・システムは製品Mixの見直し、販売価格の適正化が奏功、収益性の回復が継続。
- 液化ガス・産業ガス関連機器・装置は、CE&IGグループがLNGや水素ステーション事業などの受注案件の前倒し遂行により売上収益が大きく増加したが、通期売上見込みに大きな変更はなし。収益面は増収効果等で大きく改善。



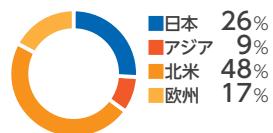
#### 航空宇宙事業

受注高	82億円 (前期比32.5%増)	売上収益	87億円 (前期比37.0%増)	営業利益	0億円
-----	---------------------	------	---------------------	------	-----



航空機の逆噴射装置用関連部品を中心に炭素繊維強化プラスチック製品の製造・販売を行なっています。

- 主力製品のカスケード、ベトナム ハノイ工場の生産部品等の出荷は緩やかに増加。
- 増収効果、円安影響、前期からの段階的な販売価格の適正化等で、採算性の回復は継続。収益性の改善は継続課題。



### 医療部門

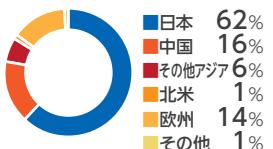
受注高	384億円 (前期比4.0%減)	売上収益	397億円 (前期比5.1%減)	営業利益	14億円
-----	---------------------	------	---------------------	------	------

#### メディカル事業



血液透析に関連した製品や、その他の医療機器の製造・販売・メンテナンスを行なっています。

- 血液透析装置の国内販売は堅実も、前年比では微減。海外では、欧州、アジアが好調も、中国市場の縮小により販売減。消耗品は増収。
- 欧州等の増収影響や製品の収益性改善があるも、中国市場の減益、固定費・経費の支出で、前年から減益。
- CRRT事業は減収・減益。今年度中に同事業を運営する子会社2社の株式譲渡を予定。また、ヘルスケア事業では中国市場向けのたな卸資産を全額評価損計上。



「Bright」は、社会を根底から支える日機装の技術や製品、人々に光をあてて紹介するためのWebメディアです。

<https://bright.nikkiso.co.jp/>  
スマートフォンはこちらから



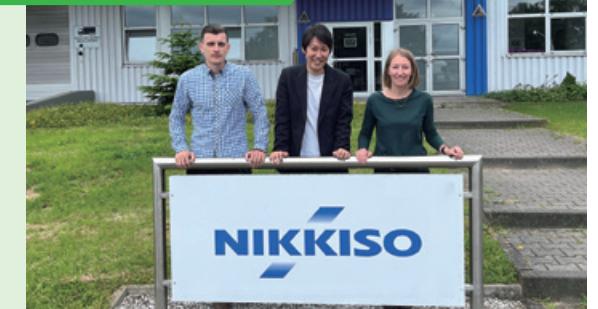
#### くらしを豊かに



業界で唯一無二の「黒子役」| 日機装・航空宇宙事業の軌跡と目指す先

航空機の進歩や、新たな空のモビリティの誕生一。変革期を迎える世界の空に、日機装はこれまでの技術をどう展開させるのか？

#### いのちの現場



透析治療の先進地・欧州で存在感 | 注目集める日機装の自動化機能

日機装は1990年代から、血液透析装置を海外展開しています。高性能へのニーズが高い欧州市場でも、評価を受ける理由とは？

#### ものづくり



半導体製造でもポンプが活躍！小型高速キャンドモータポンプ20年の歴史

半導体の製造現場でも、日機装のポンプが活躍しています。成長市場で需要を広げた要因は、小さなポンプに詰まった技術力でした。

#### 日機装の文化



「日機装技術研究所」で事業の垣根を超えた研究・技術開発に取り組み、イノベーション創出に挑戦

事業の垣根を超えたイノベーションに挑むため、研究開発機能を集約した「日機装技術研究所」。設立から1年、その足取りは？

## 脱炭素社会の実現に向けた取り組み

### 火力発電向け液体アンモニア用ポンプを開発

当社は2023年12月、燃焼時に二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）を排出しないため脱炭素燃料として注目される液体アンモニア用のポンプを開発しました。石炭火力発電の燃料を段階的にアンモニアに転換することで、CO<sub>2</sub>の排出削減と電力の安定供給の両立を図る液体アンモニアの火力発電利用に適合しており、2026年にも市場投入する予定です。

政府は、火力発電所におけるアンモニアの利用を段階的に拡大する計画を掲げています。『2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略』によると、燃料としてのアンモニアは2030年に年間300万トン、50年に3,000万トンの国内需要が想定され、世界では同年に年間1.7兆円規模のマーケットが生まれる見込みです。

当社は、引き続き液体アンモニア用ポンプの大型化などの研究開発に取り組み、拡大する市場の要請に応じてまいります。



アンモニアポンプ

### 液化水素ステーション韓国で20か所以上納入へ

当社の連結子会社グループであるCE&IGグループは、SK Plug Hyverse（韓国）などと韓国国内における液化水素ステーションの建設およびメンテナンスに関する契約を締結し、すでに完了したものも含めて納入計画が累計20か所を超えました。

CE&IGグループが提供するものは、長距離走行能力を維持しつつも、二酸化炭素の排出削減に配慮したバスや大型トラック向けに急速充填と長距離走行を実現するための液化水素ソリューションです。既にいくつかのステーションの納入が完了し、バスに燃料を供給しています。液化水素ステーション用機器の製造から、建設、ステーション設置に向けた許認可の申請、メンテナンスまで一貫して提供できることから、多くの水素インフラを手掛ける企業の関心を集めています。



韓国に納入された液体水素ステーション

## 新モビリティ、人工衛星等の新市場に向けた取り組み

### 日機装、eVTOL用部品をJoby Aviation社へ初出荷

1月22日、当社の連結子会社である宮崎日機装が運営する宮崎航空宇宙工場からJoby Aviation社（以下、「Joby社」）へJoby社が開発するeVTOL（電動の垂直離着陸機）に使用される部品を初出荷しました。

当社は、2021年にJoby社が開発を進めているeVTOLの構成部品を供給するサプライヤーに選出されており、今回初出荷したのはCFRP（炭素繊維強化プラスチック）製の構造部品です。機体をより小さく、軽量化することが求められているeVTOLでは、部材に軽量で高強度なCFRPが多く使われており、今回の部品にも当社がこれまで培ってきた高度なCFRP成形技術が生きています。



eVTOL（Joby Aviation社提供）

### CFRP製の超小型衛星放出機構 H3ロケットで初めて宇宙へ

2月17日、JAXA種子島宇宙センターから打ち上げられたH3ロケット試験機2号機に、当社が構造部品の製造を担当したCubeSat放出機構が搭載され、初めて宇宙空間に運ばれました。CubeSat放出機構は、超小型衛星（CubeSat）を格納して軌道上で放出する装置です。打ち上げ後は、予定通りCubeSatを放出することに成功しました。

当社が製造した部品は国内初の炭素繊維強化プラスチック（CFRP）製で、世界最軽量のCubeSat放出機構を実現しています。輸送効率が良いCubeSatは、地球観測や通信目的などでベンチャー企業や研究機関で利用が拡大しています。当社がこれまで航空機部品「カスケード」の製造で培った、優れたCFRP成形技術により、今回の構造部品の製造につながりました。今後、日機装製の部品が採用された、より大型の衛星放出機構の打ち上げも予定されています。



CFRP製衛星放出機構



航空宇宙工場での製造風景

## 会社概要

創業日	1953年(昭和28年)12月26日 (登記上の設立日は1950年3月7日)
資本金	6,544,339,191円
従業員数	連結8,255名(単体1,998名)

## 役員一覧 (2024年7月1日現在)

代表取締役 社長	甲斐敏彦
取締役 常務執行役員	山村優
取締役 常務執行役員	加藤孝一
取締役 執行役員	木下良彦
取締役 執行役員	齋藤賢治
取締役	ピーター・ワグナー
社外取締役	広瀬晴子
社外取締役	中久保満昭
社外取締役	福田順子

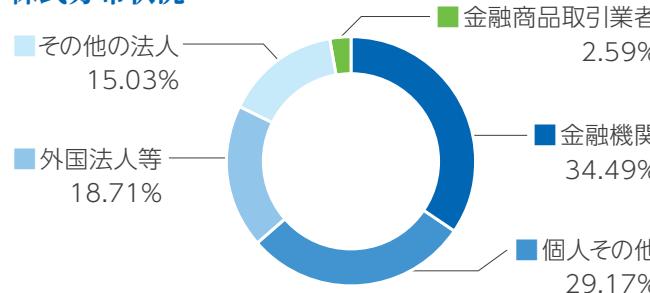
常勤監査役	網野久直
常勤監査役	竹内基裕
社外監査役	小笠原直
社外監査役	仲谷栄一郎

執行役員	中津留和男
執行役員	村上雅治
執行役員	渡辺恭介
執行役員	戸村健二
執行役員	横田直己

## 株式の状況

発行可能株式総数	249,500,000株
発行済株式の総数	69,175,664株 (うち自己株式2,924,704株)
株主数	14,062名

## 株式分布状況



## 大株主一覧 (上位10社)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	6,435	9.71
日機装持株会	3,148	4.75
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	2,711	4.09
株式会社みずほ銀行	2,500	3.77
日機装従業員持株会	2,043	3.08
三井住友海上火災保険株式会社	1,966	2.96
富国生命保険相互会社	1,700	2.56
日本生命保険相互会社	1,650	2.49
株式会社三菱UFJ銀行	1,622	2.44
THE BANK OF NEW YORK 133652	1,292	1.95

※当社は、自己株2,924,704株を保有していますが、上記大株主から除いています。  
※持株比率は自己株式を控除して計算しています。



株式・債権情報については、こちらをご覧ください。

<https://www.nikkiso.co.jp/ir/stock/>